

令和元年度第16回県政インターネットモニターアンケート（衛生課）

※表の中の「n」は、各設問の回答者総数を示す。

回答者数：605人（回答率：89.8%）

	カテゴリー名	回答者数	%
性別	男性	306	50.6%
	女性	299	49.4%
年代	10代	5	0.8%
	20代	31	5.1%
	30代	79	13.1%
	40代	128	21.2%
	50代	152	25.1%
	60代	112	18.5%
	70代	79	13.1%
	80代	19	3.1%
住所	東部	186	30.7%
	中部	222	36.7%
	西部	196	32.4%
	県外	1	0.2%
職業	自営業	39	6.4%
	会社員	227	37.5%
	公務員	16	2.6%
	主婦・主夫	150	24.8%
	学生	17	2.8%
	無職	112	18.5%
	その他	44	7.3%

○「人と動物とが共生する社会」の実現を目指す取組に関するアンケート

問1（回答数1）	n=605	人	%
1	犬が好きだが猫は嫌い	112	18.5%
2	猫が好きだが犬は嫌い	34	5.6%
3	犬も猫も好き	263	43.5%
4	犬も猫も嫌い	58	9.6%
5	好きでも嫌いでもない	138	22.8%

問2（回答数1）	n=605	人	%
1	名前も役割も知っていた	372	61.5%
2	名前は知っていたが、役割は知らなかった	81	13.4%
3	名前を知らなかった	152	25.1%

問3（回答数1）	n=605	人	%
1	賛成である	410	67.8%
2	反対である	41	6.8%
3	分からない	154	25.5%

問3-2（回答数1）	n=41	人	%
1	動物がマイクロチップ装着により肉体的苦痛を感じると 思うから	30	73.2%
2	マイクロチップに付随して、登録してある個人情報が出 ることが心配だから	5	12.2%
3	室内で飼育していれば逃げる恐れはないから	2	4.9%
4	その他	4	9.8%

問4（回答数1）	n=605	人	%
1	日常的光景の一部である	219	36.2%
2	ネズミの駆除に役立つ	10	1.7%
3	日常生活の中で心を和ませてくれる	74	12.2%
4	庭に糞をしたり財産を侵害し迷惑である	265	43.8%
5	その他	37	6.1%

問5（回答数1）	n=605	人	%
1	賛成である	421	69.6%
2	反対である	46	7.6%
3	分からない	138	22.8%

問5-2（複数回答可）	n=46	人	%
1	被害をすぐになくすことが大事なので、野良猫を生かす 方法には反対だから	24	52.2%
2	野良猫を生かすことに税金を投じる必要はないから	26	56.5%
3	人間の事情で不妊・去勢手術を施すのは残酷だから	8	17.4%
4	その他	10	21.7%

問6（回答数1）	n=605	人	%
1	いかなる場合であっても、殺処分をするべきではない	54	8.9%
2	攻撃性が非常に高い場合や、治癒の見込のない病気にか かっている場合などは、致死処置（安楽死）もいたしかたな い	402	66.4%
3	野犬や野良猫がいなくなるなら、殺処分は行うべき	97	16.0%
4	分からない	52	8.6%

問7（回答数2つまで）	n=605	人	%
1	ペットが命を終えるまで責任を持って飼う	434	71.7%
2	動物の生態や適切な飼い方をしっかりと把握し、安易に 飼い始めない	254	42.0%
3	飼い続けられなくなってしまった場合、新しい飼い主を 責任を持って探す	92	15.2%
4	飼いきれない頭数にまで繁殖させないため、不妊去勢手 術を行う	135	22.3%
5	野良猫と繁殖させないため、飼い猫は室内で飼育する	54	8.9%
6	野良猫に対し、無責任な餌やりをしない	112	18.5%
7	TNR活動により、野良猫の繁殖制限をする	45	7.4%
8	その他	15	2.5%

問8（回答数1）	n=605	人	%
1	高齢の飼い主に対するペットの飼育サポート体制が不 十分である	197	32.6%
2	高齢者が飼育の難しい動物を飼育している（例：長時 間の散歩が必要、大型犬で力が強いなど）	186	30.7%
3	高齢者本人が社会から孤立したり、認知症等の問題を 抱えているケースがある	188	31.1%
4	その他	34	5.6%

問9（回答数1）	n=605	人	%
1	高齢者介護施設等への動物との訪問活動	263	43.5%
2	高齢者の自宅への動物との訪問活動	74	12.2%
3	公民館など地域の施設での定期的なふれあい事業	90	14.9%
4	訪問すればいつでも動物とふれあえる施設	149	24.6%
5	その他	29	4.8%

問10（回答数1）	n=605	人	%
1	興味があり、ぜひ参加してみたい	31	5.1%
2	興味はあるが、まずは活動の詳細を知りたい	254	42.0%
3	興味がない	283	46.8%
4	その他	37	6.1%

問11（回答数1）	n=605	人	%
1	知らない	504	83.3%
2	知っているが、訪れたことはない	95	15.7%
3	訪れたことがある	6	1.0%

問11-2（複数回答可）	n=6	人	%
1	動物を譲渡してもらうため	2	33.3%
2	施設見学のため	2	33.3%
3	普及啓発イベントへの参加（夏休み親子動物学習会、子 猫のふれあい広場等）	1	16.7%
4	その他	1	16.7%

問11-3（複数回答可）	n=101	人	%
1	飼い主のいない動物の殺処分	45	44.6%
2	飼い主のいない動物の譲渡	86	85.1%
3	動物愛護や正しい飼い方に関する普及啓発	51	50.5%
4	その他	4	4.0%

問12（回答数1）	n=605	人	%
1	動物愛護に関する教育（児童、生徒等に対する教育事業 や社会科見学への対応等）	142	23.5%
2	動物の正しい飼い方に関する普及啓発	263	43.5%
3	殺処分減少に向けた動物の長期間飼養	22	3.6%
4	殺処分減少に向けた動物の譲渡会等の開催	116	19.2%
5	動物愛護ボランティアの支援、育成	45	7.4%
6	その他	17	2.8%

問13（回答数1）	n=605	人	%
1	飼い主とペットは、安全確保のため、一旦は共に避難所 へ避難する	393	65.0%
2	ペットは避難所に連れて行かず、自宅に残す	178	29.4%
3	動物の防衛本能を信じて野外に放つ（逃がす）	34	5.6%

問13-2（回答数1）	n=393	人	%
1	飼い主と同居で飼育する	86	21.9%
2	避難所内で、飼い主とは離れたペット専用スペースで飼 育する	220	56.0%
3	一旦共に避難所に避難して安全を確保した後は、ペッ トは自宅など避難所以外の場所で飼育する	87	22.1%

問14（複数回答可）	n=605	人	%
1	動物の飼育管理・清掃活動	158	26.1%
2	ペットフードなどの支援物資の仕分け、運搬	254	42.0%
3	支援物資の受入記録や、ペット頭数の記録などの事務作業	231	38.2%
4	被災時は動物のことを考えている場合ではないと思うの で協力できない	192	31.7%

問15（複数回答可）	n=605	人	%
1	動物愛護教室やしつけ方教室などの普及啓発事業	342	56.5%
2	ペットの犬猫による迷惑・被害防止に関する対策	298	49.3%
3	野良猫の対策（TNR活動の支援等）	315	52.1%
4	県動物管理指導センターで引き取った犬・猫の譲渡	259	42.8%
5	災害時のペット対策	241	39.8%
6	ボランティアとの協働	152	25.1%
7	特になし	9	1.5%
8	分からない	26	4.3%
9	その他	29	4.8%